

<先週の指標の動き>

指標名	数値	コメント
四半期別GDP速報 (2020年7～9月期・1次速報、11/16) 実質GDP 名目GDP GDPデフレーター	前期比+5.0% 前期比年率+21.4% (前年比▲5.8%) 前期比+5.2% 前期比年率+22.7% (前年比▲4.8%) 前期比+0.3% (前年比+1.1%)	2020年7～9月期の実質GDPは前期比年率+21.4%と、現行統計で過去最大のプラス成長。 内需では、個人消費が同+20.1%増加。緊急事態宣言の解除を受け、宿泊施設や飲食店、テーマパークなどが営業を再開し人出が回復したほか、1人当たり10万円の特別定額給付金も押し上げに寄与。一方、設備投資は、企業業績の下振れや先行き不透明感が続くなか、同▲12.8%と2四半期連続の減少。 外需では、輸出が同+31.3%と大幅に増加。経済活動の正常化が進む中国向けの増加に加え、米国向けも自動車関連を中心に持ち直し。一方、輸入は同▲33.8%と大幅に減少。4～6月期に、中国の挽回生産やマスクなどコロナ特需に押し上げられた反動減。輸出が増加した一方、輸入が減少したため、外需が実質GDPを年率換算で+12.2%ポイント押し上げる結果に。 総合的な物価の動きを示すGDPデフレーターは前期比+0.3%と、7四半期連続の上昇。一方、輸入品目の動きを除いた国内需要デフレーターは同+0.6%と2四半期ぶりにプラスに転化。
10月貿易統計 (速報、11/18) 貿易収支 輸出額 輸入額	8,729億円 前年比▲0.2% 前年比▲13.3%	10月の貿易収支は8,729億円と、4ヵ月連続の黒字。輸出は、前年比▲0.2%と前年の水準をほぼ回復。中国向けの増加が続く一方、米国向けも輸送機械を中心に増加。 輸入は、同▲13.3%と18ヵ月連続の減少。品目別にみると、原油や液化天然ガスの減少が続いたほか、航空機類なども減少。
10月全国消費者物価指数 (11/20) 総合 生鮮食品を除く総合 生鮮食品及びエネルギーを除く総合	前年比▲0.4%<±0.0%> 前年比▲0.7%<▲0.3%> 前年比▲0.2%<±0.0%>	10月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は前年比▲0.7%と、2011年3月以来の下落幅に。「Go To トラベル」により、割引後の価格を基に計算される宿泊料の下落が続いたほか、原油価格の下落を受けガソリンや電気代も下振れ。

※ 〈 〉は前月の前年比

<国内景気の現状判断と当面の見通し>

(1) 国内景気の現状判断

わが国経済は、新型コロナ流行後の大幅な落ち込みから持ち直しの動き。各国の経済活動の再開を受け輸出が増加に転じたほか、国内家計の消費活動も、緊急事態宣言の解除後に一定程度水準を回復。

(2) 当面の見通し

先行きを展望すると、新型コロナが収束しないなか、経済活動の回復ペースは大幅に鈍化する見通し。

輸出面では、リーマンショック後の中国のような世界経済の力強いけん引役が見当たらない状況。先進国を中心とした新型コロナの流行再拡大も重石となるため、輸出の回復ペースは次第に鈍化する見通し。

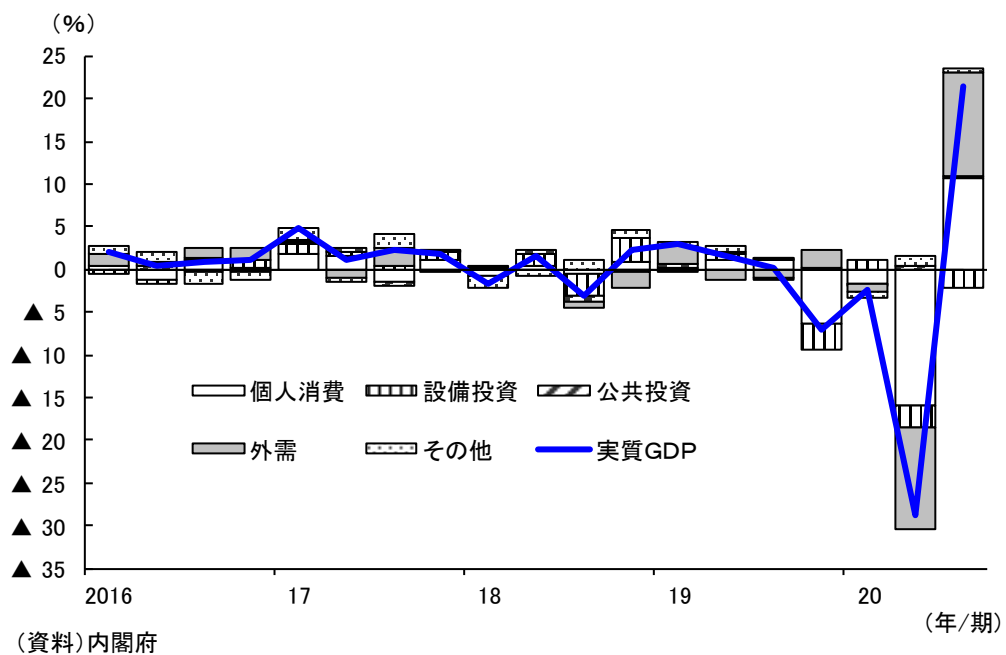
一方、内需についても、自粛ムードが個人消費を下押し。失業率の上昇や賞与の下振れなど、雇用・所得環境の悪化も重石となり、新型コロナ前の水準を下回る状態が長期化する見通し。

<当面の国内主要経済指標等のスケジュール>

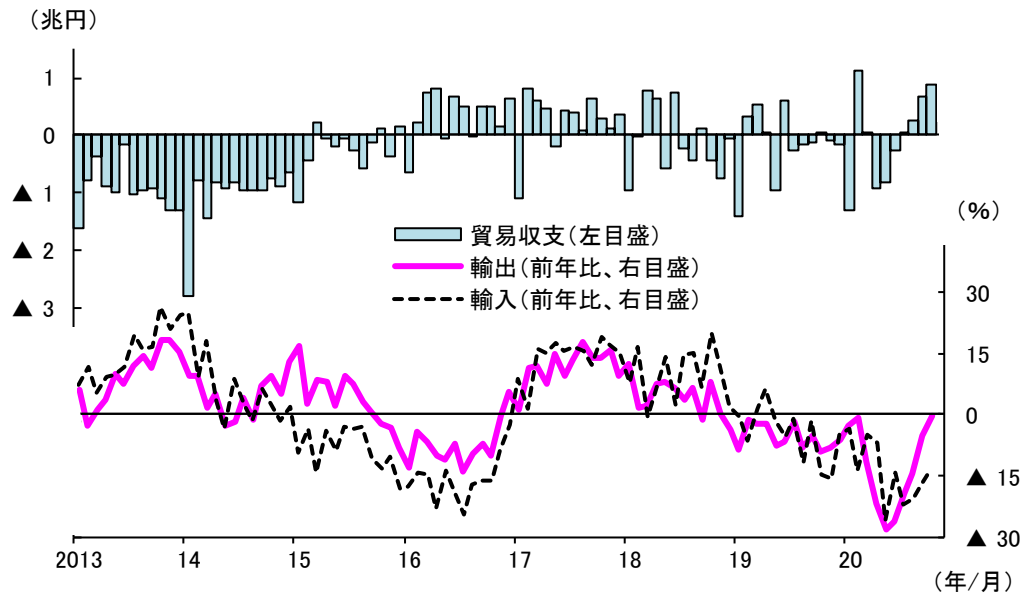
月日	指標名等	発表機関
11/24 (火)	10月 全国百貨店売上高	日本百貨店協会
11/26 (木)	10月 チェーンストア販売統計	日本チェーンストア協会
11/27 (金)	11月 消費者物価指数・東京都区部	総務省

<図表で見る経済指標>

(図表1)実質GDP成長率(前期比年率)

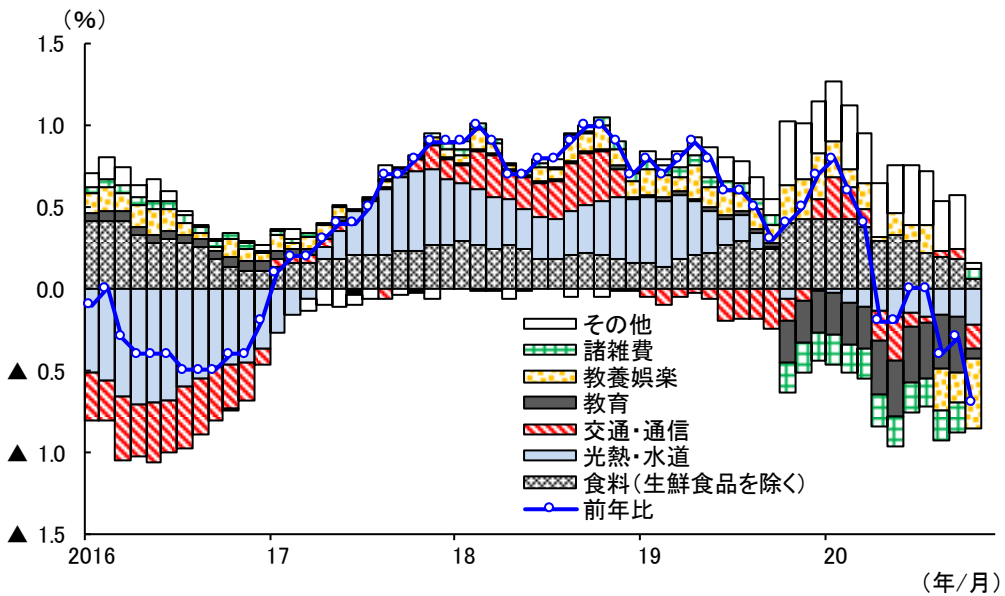


(図表2)貿易統計



(資料)財務省

(図表3)全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合、前年比)



(資料)総務省

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

